

シャノアール研修センター

正会員 益 子 義 弘 君

正会員 安 宅 研 太 郎 君

海岸沿いを走る京葉線からはさまざまな風景が見える。都心のオフィスビル群を抜ける
と工場地帯となり、緑豊かな舞浜臨海公園、そして華やかな非現実世界であるディズニー
ランドを越えるとまた工場地帯となる。「シャノアール研修センター」は、この工場が連な
る殺伐とした湾岸地帯に位置する、全国に飲食店を展開する企業の研修施設である。

この建築の優れた点は以下の通りである。

一点目は、敷地周辺に潤いを与えつつ、周辺街区の変化を誘導する外構計画である。敷
地には海に近いため、クロマツ、マテバシイの防風林があった。この既存の植栽に在来樹
であるタブノキ、シロダモ、エノキなど 25 種類の苗木を混植し、豊かな植生帯としている。
将来は緑豊かな森に成長するはずである。また、既存にあったテニスコートの舗装材やコ
ンクリートガラや建設で生じる発生土は、産廃として処分せず、ガラは金網のフトンカゴ
に入れ緑化のための土塁とし、土は外構の盛り土として再利用しているなど、ゼロエミッ
ションも行っている。敷地道路沿いは、ガラ入りのフトンカゴを基礎とした独自に開発し
た緑化フェンスにより、防風林と一体となった緑豊かな景観をつくり出している。実際、
この建築の竣工以降周辺の清掃も行き届くようになり、少しずつ環境が整備されているそ
うである。

二点目は、ヒューマンスケールをつくり出す前庭と建物配置および建物形状である。周
辺建物群は、ヒューマンなスケールとは程遠く、味も素っ気もないものでスケールアウト
している。フトンカゴの土塁で 1m ほど盛り土された前庭、1 層の研修棟、そして 2 層の倉
庫棟と段階的にスケールアップする建物配置。機能ごとの分棟的な配置によるヒューマン
スケールの創出。西日と座った時の視線を考え、日本の住まいのように低く抑えられた開
口部と軒ラインなどにより、スケールアウトした周辺の中でホッとするような気持ちよい
スケール感を持つ場を生み出している。

三点目は、周辺との調和である。二点目の段階的にスケールアップする配置、そして切
妻の周辺建物の形状に合わせた家型のシルエットが、周辺建物と一体化し調和したひとつ
の集合体のような景観をつくり出している。

四点目は居心地の良さである。研修棟の諸室は、緑豊かな中庭を巡るように配置されて
いる。西側の前庭に連続する会議室、応接室を除き、すべての場は外周には閉じ、中庭に
対して開いている。この構成により周囲の工場の騒音から室内を守り良好な室内環境を確
保している。水平力は外周の RC 造の壁で負担し、中庭に面する柱は軸力だけを負担する構
造計画で、RC 造でありながら住宅のようなスケールを実現し、低い軒とともに居心地の良
い作業空間をつくり出している。

以上のように、本建築は、ヒューマンスケールの豊かな空間をつくり出した建築自体の
すばらしさとともに、周辺環境になじみつつ、将来の豊かな環境をつくり出す要素を持っ
た優れた建築である。

よって、ここに日本建築学会作品選奨を贈るものである。